



第34回生涯学習 フェスティバルを開催



①黒川タツさん ②黒川剛さん ③おじさんと小娘

さまざまな団体や市民が1年間取り組んだ成果を発表する、第34回生涯学習フェスティバルが2月9日、市民会館で開催されました。

舞台上では、優良社会教育関係功労者等の表彰や県青少年国際協力体験事業・金山校区子ども会活動の活動報告があったほか、自主学習グループが日々の活動の成果を発表しました。親子講演では、県農村婦人ホームリーダークラブ元会長の黒川タツさんとその次男で鹿屋体育大学自転車競技部元監督の黒川剛さんが、前向きに挑戦し続けて得た気づきを話しました。

また、特別ライブでは、TikTokで活躍する音楽ユニット「おじさんと小娘」のエネルギッシュなパフォーマンスに、会場は楽しく盛り上がりしました。



枕崎市未来共創フェローに 陳内氏と小出氏の2名を委嘱



2月18日、本市では、効果的かつ効率的なデジタルトランスフォーメーションを推進するため、専門的な知識や経験に基づく助言等を行う「枕崎市未来共創フェロー」に、内閣府のクールジャパン地域プロデューサーを務める陳内裕樹氏と大阪教育大学客員教授の小出泰久氏の2名を委嘱しました。

委嘱式に出席した陳内氏は「地方創生の成功には、『変わるのを楽しんでいく』という雰囲気づくりがカギになります。変化の激しい世の中で、枕崎の未来を皆さんと共に創れることを誇りに思い、楽しんでいきたい」と話しました。



食べて知る枕崎の恵み！ 生産者と児童の交流授業・給食を開催



1月27日、地域の食や食文化等について理解を深め、食料の生産、流通に関わる人々への感謝の気持ちを育むことを目的に、立神小学校3年生と枕崎牛生産者との交流授業・交流給食を実施しました。

大塚地区の大堀牧場で枕崎牛を生産している宮路真洋さんを講師に、枕崎牛の生産・肥育・出荷までの様子などの説明を聞いた児童らは「なぜ牛は4つも胃があるの？」、「枕崎牛はどんなところに住んでいるの？」と興味津々。授業の後には、生産農家の方々から提供された食材を使った「枕崎牛のきんぴら」を講師の宮路さんと一緒においしくいただき、地元食材の素晴らしさを学びました。



「南溟館」がフォトドラ スポットアワードに認定



写真を撮るために、わざわざ出かけてみたくなる、とっておきの鹿児島を集め、その魅力と驚きを世界中に発信していく「フォトドライブプロジェクト」のスポットとして「南溟館」が認定され、2月12日に認定書が贈呈されました。本市では4カ所目の認定となる「南溟館」は、東シナ海が大きく広がり遠くの島々が一望できる景勝地であることや、船のイカリをモチーフとした建物と海をイメージしたベンチが特徴的で、人々の憩いの場となっていることなどが、とっておきの風景として評価されたものです。

3月は市税等滞納整理 強化月間です

「差押え」を強化します

市では、毎年増加傾向にある市税等の滞納額の縮減と収納率向上を目指し、3～5月を「市税等滞納整理強化月間」として滞納解消に取り組みます。納税について誠意の見られない滞納者に対しては、給与や預貯金の差押えのほか、搜索やタイヤロックによる自動車やバイクの差押えなど、厳正・公平な徴収対策を強化します。

納期限を過ぎて納付した場合「延滞金」を加算

市税等に未納があると、本来納めるべき税のほかに督促手数料（1期ごと100円）、延滞金（納期限1カ月経過までは年2・4％、1カ月経過後は年8・7％）も納めなければならなりません。延滞金は納期限の翌日から計算され、原則、減免はありません。市税等の納め忘れがある方は早めに納付をお願いします。

納税が困難な方は ご相談を

災害や盗難、本人や家族の病気、事業の休廃止、失業などのやむを得ない事情により市税等の納期ごとの納付が困難な方は、早めに税務課にご相談ください。

●本市の差押換価実施件数等

内訳	令和5年度 (実績)	令和6年度 (R7.2未現在)
給与等	121件	84件
預貯金	21件	27件
生命保険	1件	—
その他債権	18件	9件
計	161件	120件
換価による税収等	6,344,747円	4,075,781円

■問合せ 税務課管理収納係
TEL 732175

枕崎とミクロネシアの友好関係から 生まれたJICA技術協力事業

ミクロネシアにおける 水産系残滓処理による 養豚用飼料普及プロジェクト

国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、令和4年1月から枕崎水産加工工業協同組合が行った「ミクロネシアにおける水産系残滓処理による養豚用飼料普及プロジェクト」が令和7年1月に終了しました。

枕崎市の基幹産業であるかつお節製造の原料となる冷凍カツオの多くは、南太平洋の島国・ミクロネシアで漁獲されています。これまで同組合は、ミクロネシア内にあるポンペイ島のかつお節工場を技術面で支援してきました。

本プロジェクトは、島内のかつお節製造での加工残滓（骨、内臓など）や未利用魚などを魚粉化し、養豚用飼料として活用することで、島民の生計向上と島内産業の発展に貢献することを目的に始まり

ました。

現地スタッフ、関係者が一丸となって試行錯誤を重ねた結果、カツオ残滓を利用した魚粉とココナツ粉末を組み合わせた、新たな養豚用飼料の開発に成功し、さらに、現地スタッフの積極的なPR活動により、飼料はポンペイ島内での普及が進んでいます。プロジェクトを通して、現地の人々は「Make here, make for here（自分たちの力で自国を発展させる）」という合言葉を掲げてきました。



▶完成した養豚用飼料

今後は、プロジェクトで培われたノウハウを生かしながら現地のスタッフで飼料の製造・普及を行っていきます。本プロジェクトのパネル展示を、枕崎お魚センターにて3月10日から16日まで開催します。

ぜひ足をお運びください。
■問合せ 水産商工課商工振興係 TEL 761667



▲プロジェクトの現地スタッフ